リオ・クオクマン（指揮）

Lio Kuokman, conductor

マカオ生まれ。

現在、スロヴェニア放送交響楽団首席指揮者、マカオ管弦楽団音楽監督・首席指揮者、香港フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者、関西フィルハーモニー管弦楽団アーティスティック・パートナー、マカオ国際音楽祭プログラミング・ディレクターを務めている。

2014年のスヴェトラーノフ国際指揮者コンクールで最高位を受賞。2016年までフィラデルフィア管弦楽団でヤニック・ネゼ＝セガンの副指揮を任され、地元紙に「驚くべき指揮の才能」と称えられた。

これまでに、ウィーン響、フランス放送フィル、トゥールーズ・キャピトル国立管、デトロイト響、ソウル・フィル、上海フィル、台湾フィル、N響、都響といった世界の主要楽団に客演し、モンテカルロ・フィル、アイルランド国立響、京響とは特に親密な関係を築いている。ソリストでは、ネルソン・フレイレ、アンヌ・ケフェレック、ニコラ・アンゲリッシュ、ルノー・カプソンらの名奏者と共演。

オペラにも積極的で、《ラ・ボエーム》、《愛の妙薬》、《道化師》、《トゥーランドット》、《イル・トロヴァトーレ》、《リゴレット》、《蝶々夫人》、《カルメン》、《セビリアの理髪師》をはじめ、多数のプロダクションを指揮。ピアニストとしては、ザルツブルク・モーツァルテウム管やフォートワース響、京響と共演している。

香港演芸学院、ジュリアード音楽院、カーティス音楽院、ニューイングランド音楽院でピアノと指揮を学び、オットー=ヴェルナー・ミュラー、ヒュー・ウルフに師事。サー・サイモン・ラトル、マイケル・ティルソン・トーマス、ジェームズ・レヴァイン、クリストフ・エッシェンバッハ、アラン・ギルバートらのマスタークラスでも研鑽を積んだ。

マカオ室内楽協会の創設メンバーで、同協会の代表に在任中。芸術文化の発展への貢献が評価され、香港とマカオの両政府から賞や勲章を授与されているほか、2021年には香港の”Ten Outstanding Young Persons”（10人の傑出した若者たち）に選ばれた。